

オンラインで働くということ ~さくらのリモートワーク~



DAY

2020/04/28

COMPANY

さくらインターネット株式会社

DEPARTMENT

人事部
労務制度グループ

NAME

川村 貴宏

川村 貴宏 (かわむら たかひろ)

- さくらインターネット株式会社
管理本部人事部 労務制度グループ リーダー
- 1986年生まれ 奈良県出身 埼玉県在住
- 2009年4月 新卒でメーカーに入社、人事部に配属
- 2014年11月 さくらインターネットに労務担当として転職
- 労務、人事制度を中心に担当



SAKURA internet

商号	さくらインターネット株式会社
本社所在地	大阪府大阪市北区大深町4-20 グランフロント大阪タワーA 35F
創業年月日	1996年12月23日
資本金	22億5,692万円
従業員数	652名（連結）



- 1996** ● **さくらインターネット創業**
 1996年12月に現社長の田中邦裕が、舞鶴高専在学中に学内ベンチャーとして創業。
- 1999** ● **株式会社を設立
最初のデータセンター開設**
 1999年8月に株式会社を設立。データセンターを大阪市中央区に開設。
- 2005** ● **東証マザーズ上場**
 2005年10月に東京証券取引所マザーズ市場に上場。
- 2011** ● **石狩データセンター開設**
 2011年11月、北海道石狩市に国内最大級の郊外型大規模データセンターを開設。
- 2015** ● **東証一部に市場変更**
 2015年11月に東京証券取引所市場第一部に市場変更。
- 2016** ● **創業20周年**
 2016年12月、創業20周年。



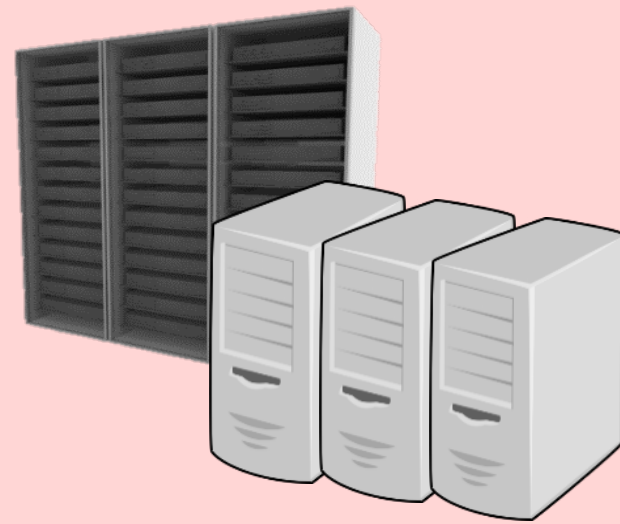
コンテンツ事業者



データ

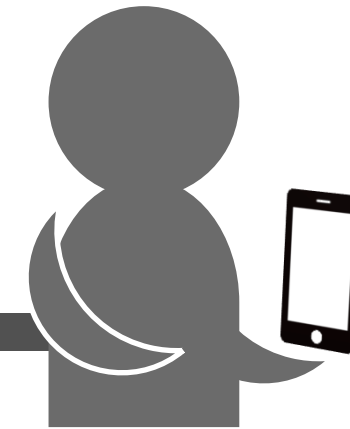


データセンター



サーバインフラ

インターネット利用者



インターネット



データセンターにデータを預ける

データを保管・処理する

インターネットを介してデータが流れる

ブラウザ・アプリからサーバにアクセスする



さぶりこ

Sakura Business and Life Co-creation

さくらでのはたらき方



さぶりこ

Sakura Business and Life Co-creation

さぶりこ
ショート30

定時の30分前退社

さぶりこ
フレックス

勤務時間のスライド

さぶりこ
タイムマネジメント

残業代20時間先払い

さぶりこ
パラレルキャリア

起業などの社外活動支援

さぶりこ
どこでもワーキング

リモートワーク制度

さぶりこ
ファミリータイム

育児中の柔軟な短縮勤務

さぶりこ
リフレッシュ

柔軟な有給休暇制度

さぶりこ
フレンズ

社員紹介制度

価値観は「社員を信じる」「多様性」そして「余白」

- **社員を信じる**

- きちんとした目標と十分な権限があれば、社員は自律的に動ける
- 過剰な管理をする必要はない

- **多様性**

- さまざまな価値観やバックグラウンドを持ち、
さまざまな人生のステージにいる社員が、その多様性を活かして
働くことができる

- **余白**

- 必ずしも効率だけを追い求めない。
「余白」を持つことで、心理的安全性が確保され、スループットが上がる

「さぶりこ どこでもワーキング」

- 2019年12月導入
- 1日単位でリモートワークが可能な制度
- とはいえ、「原則は出社」「在宅は例外」だった
- 印刷や押印が必要な社内書類も多々あった
- 「会議がある日は出社しよう」という風潮もあった
- コロナ前は、月間150名程度（社員の3割程度）がリモートワークを使用していた

- PCは自由。Win/Mac、デスクトップ/ノートPCが混在
(会社の推奨モデルは存在するが、それ以外からでも選択可)
- スケジュール管理はサイボウズガルーン (要VPN)
- メールはExchange
- データはOffice365/SharePoint
- 社内コミュニケーションはSlack
- テレビ会議はZoom

- リモートワークの際は、自宅のPCから会社にもリモートデスクトップ
- PCがノートの場合は、事前に上司承認→情シスで暗号化処理をした上で、持ち出して使用も可能

2020年3月2日 「原則在宅勤務」

- 「**「出社しないといけない理由が無い限りは在宅にしましょう」**という温度感
- **PCの持ち出しの際、上司の承認が不要になり、直接情報システムGで暗号化対応が可能となった**
- **会議がリモート前提になり始めた**
- **査定会議もリモートになった**
(事務局は念のため出社したが、役員は誰も出社してこなかった)
- **取締役会もリモートになった**
- **それでも、出社を希望する社員は出社していた**

在宅勤務にあたり、あらためて 「余白」を重視することになった

- 多少効率が落ちてもやむなし
- お子さんが入ってきててもやむなし
- 「この非常事態だから、皆で協力して乗り切ろう」というスタンスからはじまった

2020年4月1日 新卒新入社員 入社式

- いつもは役員と人事のみの参加だったが、Zoomで全社員参加可能にした
- 数十人の社員がZoom越しに新入社員の入社をお祝いした



2020年4月8日 「出社禁止」

- 緊急事態宣言の発令に伴い、データセンター勤務者を除き、出社が禁止になった
- どうしても出社しなくてはならない時は、役員の承認が必要（！）
- 全ての会議がリモートになった

- **リモート前提での会議になった**
 - これまでは「会社にいる皆」対「少数のリモート参加者」で、リモート参加者は疎外感を覚えていた
 - 弊社は石狩・東京・大阪・福岡にオフィスがあり、元々テレビ会議が活発だったにもかかわらず、「人数が多いオフィス」がイニチアチブを取ってしまう状況だった（特に東京）
 - 図らずも、全員リモート参加になったことで、全員対等に話せるようになった

- **雑談に飢え始めた**

- 普段から雑談をたくさんしていた人も、そうでない人も、雑談に飢え始めた
- 隣の人に「ちょっといいですか？」と声をかけることもできない
- 廊下や休憩室で会った同僚に、「最近どう？」と声をかけることもできない
- 残業中に「ちょっと一杯いかない？」などと声をかけることもできない

→ **Zoomで「雑談部屋」が自然発生し始めた**

用があってもなくてもそこに接続し、何かあったときは発言する
何もなくても独り言を言ったりする 自由な場所

- **新たなコミュニケーションが生まれ始めた**

- **Zoom背景芸**

Zoomのバーチャル背景。

初めは皆恐る恐る、Zoomデフォルトのものを使っていた

ある日何故か社内の背景を設定することが大流行した

社長が電波少年の背景でまじめな会議に入ってきた時は突っ込むか迷った

- **ご飯晒し**

新卒の子たちが先輩社員に飯テロを食らわせる流れになっている

- **新たなコミュニケーションが生まれ始めた**
 - その他小ネタ
 - FaceRigが大流行し、バ美肉社員が急増
 - 上司が梅宮辰夫さんになっていた
合成かと思ったら段ボールで手作りしたお面だった

• 新たなコミュニケーションが生まれ始めた

• Zoom飲み会

- 「役員と飲む会」が開催された
真面目な会になるかと思いきや、
バ美肉社員がたくさんいてカオスだった

• 新卒新入社員の歓迎会をした

Zoomの部屋割りを定期的に入れ替え、
色々な社員と新卒社員が話した



• テレビ会議の工夫

- 事前に接続先IDを準備し、グループウェアに書いておく
(そうしないと、直前でみんな接続先が分からず慌てる)
- ファシリテーターを置き、なるべく全員が話せるよう話を回す
- 話す人以外はなるべくミュートにする (生活音が入る)
※人数が多いときは、ホスト側で全員ミュートにする
- 書記が必要な時はファシリテーターと別に置く
Zoomの録画機能を使うのもアリ

- **コロナ後、どうなる？**
 - コロナ前には戻らないだろうと考えている
 - 今まで以上にリモート勤務者が増え、リモートが当たり前の世の中になっていく
 - リモート勤務はもはや例外ではない
オフィス出勤者とリモート勤務者が共存し、互いが対等に働ける仕組みづくりをしていく必要がある
 - 業務フローの設計も、オフィス出社を前提としたものから脱却していかなくてはならない
例) 電子申請、電子押印、etc...

紙が無くならない！！（主に税関連、健保・年金関連）

- 押印
- 配布書類
- 原本保管が必要な書類たち